

一、次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

「私たちがハッピーに感じるのは、どのようなときなのだろうか」。

①コミュニティのありかたを考えるにあたって、私は、このとても素朴な疑問から話を始めたいのです。このような疑問は、実はたいへん現代的なのです。人間の長い歴史のほとんどの時代は、どのようにすれば「生き残れるか」というのが課題でした。その証拠に、人間がつくってきた社会組織は生き残るための組織でありました。伝統的な村の組織にしろ、家の組織にしろ、またもつと大きくは国家にしろ、組織構成の中には、その構成員がうまく生き残るための工夫が②ちりばめられています。

もちろん、幸福の追求という考え方が歴史的になかったわけではありません。ただ、歴史的にはそれは帽子の羽根飾りのように小さな比重、ささやかな願望にすぎなかったのです。けれども現在は、生き残り尺度よりも幸福尺度のほうが、人びとの関心を集めています。少なくとも日本ではそうです。

では、この幸福尺度を基本において、自分たち自身を取り巻く世界をどう直したらどうなるのでしょうか。そこでは当然、今までの組織では役に立ちません。ア、今述べた村や家という組織では、経済的・社会的・肉体的にハンディが生じて、たとえ幸福でなくても、ともかく生き残れる工夫がありました。身寄りのない年をとった女性に対しては「火焚きババア」として、かまど竈の火の番をしてもらう制度をつくっている村もありました。しかし、このような生き残りを目的とした組織の工夫だけでは十分ではありません。

他方、幸福追求といっても、Aまつたく個人が自由のままに生きれば、わがままな人の集まりになるだけです。社会が衰退すれば、個人そのものも衰退してしまいます。

そこで、自分たちの大切な財産である文化を引き継ぎつつも、新しい組織構成を考える必要があります。それはどのようなものなのでしょうか。それを本書で考えようとしています。もつとも、③天上段に新しい社会組織論や国家論を展開するという気持ちはありません。そうではなくて、マンガやテレビアニメの「サザエさん」で描かれているような、ほんの身近な世界で、どのような仕組みをつくっていけば自分たちの日々の世界は落ち着くのか、を考えてみたいのです。それが私たちの生き方の基本になるのではないかと思っているからです。

イ、先ほどの問いです。「私たちがハッピーに感じるのは、どのようなときなのだろうか」。私は自分の答えをあらかじめ言っておこうと思います。

私たちが幸福と感じるのは、「他人とのすばらしい関係性が成立したとき」ではないでしょうか。もちろん、これは私独自の考えではありません。『幸福論』の哲学者たち、バートランド・ラッセルやカール・ヒルティの著作の中にも類似的指摘を見ることができます。ただ、哲学者というものは抽象度が高く「自己」に目を向けがちです。それに対して、現場での姿勢では「関係性」に比重を置く傾向が見られます。マザー・テレサは、「この世で最大の不幸は、誰からも④と感じることだ」といっています。この言葉も結局は、人間関係の絆の有無がハッピーの程度を決めるといっているのでしょう。

自分の過去を振り返ってみても、B小さなころから人との関係性が大切であることを感じてきたように思います。たとえば母親がしまっているお菓子をこっそり盗み食いしたり、ふたつのミカンがあつて、妹を暴力的に説得して自分が大きいほうのミカンを食べたりしたとき。その瞬間はハッピーそうなそぶりをしているのですが、本心はそれほどハッピーではありませんでした。皆さんの経験ではどうですか。

人間というものは不思議なものです。自分の行いで、身近な人や偶然会う行きずりの人がハッピーになると、心から嬉しいものです。

私の最近の経験談を披露しましょう。台湾の中部の山間にある霧社やまあいという町を訪れたときのことです。首都の台北市から台中市まで鉄道に乗り、そこから山に向かつてバスに乗っていくと、霧社という町に着きます。小さな町なので、この山の奥までバスに乗ってくる人は少数です。下車した人も二、三人でした。降りたところで、(※1)回転焼きまわしやを売っている屋台があり、中年のおばさんがあんこを手早く入れながら回転焼きをつくっていました。たいへん日本的な雰囲気⑤出くわしたのです。

(※1) 回転焼き 小麦粉でつくった皮であんこを挟んで焼いた丸い形のお菓子。大判焼・今川焼

「承知のように第二次世界大戦の終戦までは台湾は日本の植民地でした。さらにこの山の奥のほうでは、村ごと言語が異なっていること」もあって、日本語が共通語になりました。⑥そのためにも、日本で生まれたのでもなく、日本に来たこともない山の民族の村々では日本語が話されています。最近では若い人たちは台湾の平地と同じように母語が中国語になったということですが、山に住む上の世代の人にとっては日本語が母語なのです。から、日本的な文化も色濃く残りやすいのです。

この霧社は、「存じ」の方もいるかと思いますが、日本の統治時代に現地の住民と日本人との間で激しい抗日蜂起事件「霧社事件」(一九三〇年)のあった地です。日本の強引な植民地化という歴史に向き合わざるを得ないので、日本人としては「霧社」という地名には複雑な思いを抱くかもしれません。

私が昼食をとろうとして、小さな食堂を覗き込むと、「いらつしやい」という日本語が聞こえました。台湾で初めて日本語を聞きました。「アア、山の中に入ってきたナ」と実感しました。「いらつしやい」と言ったのは実は店の人ではなくて、霧社よりもっと山の奥から下りてきたおばあさんでした。おばあさんはラーメンを食べていました。失礼な言い方かもしれませんが、痩せていてCみすばらしい姿でした。そのおばあさんは「私は山の人よ」と日本語で自己紹介をし、そのまましばらく日本語で話をしました。朝六時に家を出て山から徒歩でこの霧社まで下りてきたそうです。私は帰りのバスの切符の買い方が分からなくて、そのおばあさんに切符を売っている金物屋さんのところまで案内してもらいました。そして台中市への中継点である埔里ほりまでのバスの切符代を聞きましたら、おばあさんが懐からお金を出して払おうとしました。押し問答の末、結局おばあさんがそのお金を払ってしまいました。これも失礼な言い方かもしれませんが、私にとっては長距離のバス代七〇元はたいした金額ではありません。ウ このおばあさんにとっては高額だと思います。心が痛みましたが、好意を受け取りました。心が痛んだ理由は、彼女が貧しそうに見えたからだけではなく、日本人による土地の収奪、強制労働の末に多数の犠牲者を出した血なまぐさい場所である、霧社で出会った好意だからでもあります。

この行きずりの人間に対するおばあさんの好意は、一体何なのでしょう？

このおばあさんの好意によって、一介の旅行者である私にとつての霧社の景色は一変しました。何か懐かしいにおいをする、柔らかい陽光に包まれた景色として霧社を見ることができました。エ 自分が他人に対してどのようなことをすべきかを改めて学びました。

私は地球上のそれぞれの民族、それぞれのコミュニティが自分たちの社会で築いてきた当たり前の付き合いの中に、基本的にこのような好意があるはずだと思っっていますが、みなさんはどう思いますか。さまざまな厳しい状況下で、このような好意よりも、憎しみや差別のほうが目立って表れることはしよっちゅうあるでしょう。それでもこうした日常的な心遣いが生活の基本にあり、その基本を土台にして私たちのコミュニティはD成り立っているのではないかと私は考えています。

(鳥越 皓之 著『サザエさん』的コミュニティの法則』より)

問一、空白部ア～エに入れるのに最も適切な言葉を次から選んで番号で答えなさい。

- 1 さて 2 これが 3 たとえば 4 いかにか 5 そして 6 しばしば 7 もちろん 8 しかし

問二 傍線部A～Dについて、品詞を答えなさい。

問三 傍線部①「コミュニティ」をわかりやすく答えなさい。

問四 傍線部②「ちりばめられています」の主語を答えなさい。

問五 傍線部③「大上段に」について、意味を答えなさい。

問六 ④に入る適切な文を次のa～dから選びなさい。

- a 大切だと思われていない b 相手にされてくない c 必要とされてくない d 友人だと思われてくない

問七 傍線部⑤について、「出くわした時」筆者はどう思ったのでしょうか。答えなさい。

問八 傍線部⑥「そのため」が指し示すことがらを答えなさい。

問九 傍線部⑦「おばあさんの好意」はどんな思いからですか。あなたの考えを述べなさい。

問十 傍線部⑧「好意」について、文中では別の言葉で表現されています。どんな言葉ですか。答えなさい。

二、カタカナ部分を漢字で書きなさい（送り仮名が必要な場合もあります）

- ① ショクチユウドクが発生する
- ② 空をナガメル
- ③ ヒンケツの症状
- ④ ユウセンジュンイを決める
- ⑤ ソツチヨクに認める

三、傍線部の漢字の読みをカタカナで書きなさい。

- ① 経口摂取が困難である
- ② すき間に潜む
- ③ 心臓が拍動する
- ④ 人の往来がある
- ⑤ 丁寧に説明する

四、（ ）に漢字一字を入れ、四文字熟語を完成しましょう。

- ① 電光（ ）火
- ② 絶（ ）絶命
- ③ 起死回（ ）
- ④ （ ）実剛健
- ⑤ 前代（ ）闕

作文問題

以下の題で四百字程度の文章を書きなさい

「健康であること」